

まちづくり交付金 事後評価シート
川越市中心市街地地区

平成21年12月

埼玉県川越市

様式2-1 評価結果のまとめ

都道府県名	埼玉県	市町村名	川越市	地区名	川越市中心市街地地区			面積	486ha
交付期間	平成17年度～平成21年度	事後評価実施時期	平成21年度	交付対象事業費	8,609百万円	国費率	0.40		

1)事業の実施状況	当初計画に位置づけ、実施した事業		事業名						
	基幹事業	道路事業(三田城下橋線ほか9事業)、地域生活基盤施設の広場整備として川越城中ノ門堀跡整備事業							
	提案事業	地域創造支援事業のうち修理費等の補助(都市景観重要建築物の活用)、酒造跡地活用(鏡山酒造跡地)、まちづくり活動支援事業(まちづくりアドバイザーの派遣、都市景観シンポジウム負担金)							
	当初計画から削除した事業		事業名	削除/追加の理由			削除/追加による目標、指標、数値目標への影響		
	基幹事業	道路事業のうち本川越駅前通線、市内循環線(郭町1丁目)及び公園事業、既存建造物活用事業	関係機関との調整に時間を要したため等。			影響は軽微であったが、完成すれば道路交通の円滑化が図られ、中心市街地のさらなる賑わいを創出できた。			
	提案事業	都市景観シンポジウム負担金(平成20年度より関連事業へ移行)	関連事業とすることが適切と判断したため。			影響はない			
新たに追加した事業		基幹事業	道路事業のうち川越駅南大塚線、川越駅南大塚線旭町1丁目交差点改良、市道0058号線、地域生活基盤施設(川越城中ノ門堀跡整備事業)			目標をより良く達成するため。		数値指標へ直接的な影響はないが、交通渋滞を緩和し、まちづくりの目標(中心市街地の活性化)に貢献できるため追加。	
		提案事業	変更なし			—		—	
交付期間の変更		当初	平成17年～21年度		交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響				
		変更	変更なし		—				

2)都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	単位	基準年度	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
指標1	休日の歩行者交通量	人/12時間	10,850	H16	13,000	H21		15,174	○	あり	電線類地中化及び路面の石張り整備等の道路整備事業により、地区全体の賑わい、活性化が増大し休日歩行者通行量の増加につながった。また、地域創造支援事業である鏡山酒造跡地の事業完了により、当該施設前の歩行者通行量が増加した。	
指標2	商業・観光施設利用者数	人/年	418,000	H15	627,000	H21		674,323	○	あり	地域創造支援事業である鏡山酒造跡地の事業完了により、施設利用者が増加した。また、道路事業(三田城下橋線)の整備が完了し、自動車通行における利便性の向上や観光スポット間の回遊性、歩行時の安全性が向上し、観光施設利用者数の増加へ貢献した。	
指標3	主要駅間の乗り継ぎ所要時間	分	11	H17	5	H21		11	△	あり	指標に貢献する事業が、交付期間内に完了しなかったため、数値目標は達成できなかったが、(仮称)本川越西口駅前通り線における、駅前広場予定用地の取得や関係権利者との交渉に進捗が見られた。引続き、第2期計画により事業を推進し、数値目標の達成を図る。	H22・4～
										なし	●	

3)その他の数値指標(当初設定した数値目標以外の指標)による効果発現状況	指標		従前値		目標値		数値		目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因(総合所見)	フォローアップ予定時期
	単位	基準年度	基準年度	目標年度	モニタリング	評価値						
その他の数値指標1	(仮称)本川越西口駅前通り線の取得済み用地面積	m ²	0	H16				2,049			(仮称)本川越西口駅前通り線における、駅前広場予定用地を取得することができた。引続き、第2期計画により事業を推進し、主要駅間の乗り継ぎ所要時間の短縮を図る。	

4)定性的な効果発現状況
 ・都市計画道路(三田城下橋線)が整備完了したことにより、歩行者の安全性が向上し、安全・快適な歩行空間の形成が図れた。・石張り舗装及び電線類の地中化により、景観が向上するとともに、町並みに相応しい品位ある快適な歩行空間が生み出された。・鏡山酒造跡地が整備されたことにより、景観が向上した。・(仮称)本川越西口駅前通り線整備に伴い取得した用地において、懸案となっていた周辺の雨水対策に貢献する、貯留施設の整備を推進することができた。
 ・都市景観重要建築物の外観整備を進めたことにより、まちの魅力が向上した。

5)実施過程の評価	実施内容		実施状況		今後の対応方針等
	モニタリング	住民参加プロセス	都市再生整備計画に記載し、実施できた	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	
	—	川越城中ノ門堀跡整備検討委員会の実施	都市再生整備計画に記載し、実施できた	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	—
	持続的なまちづくり体制の構築	まちづくりアドバイザーの派遣	都市再生整備計画に記載し、実施できた	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	● 市民、観光客へのPRや管理面において、地元住民との連携を予定している。
			都市再生整備計画に記載し、実施できた	都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	● 地域において景観形成に関する意識を高める活動を継続することで、代替わりや相続の際に危惧される良好な景観の損失を防ぐ。

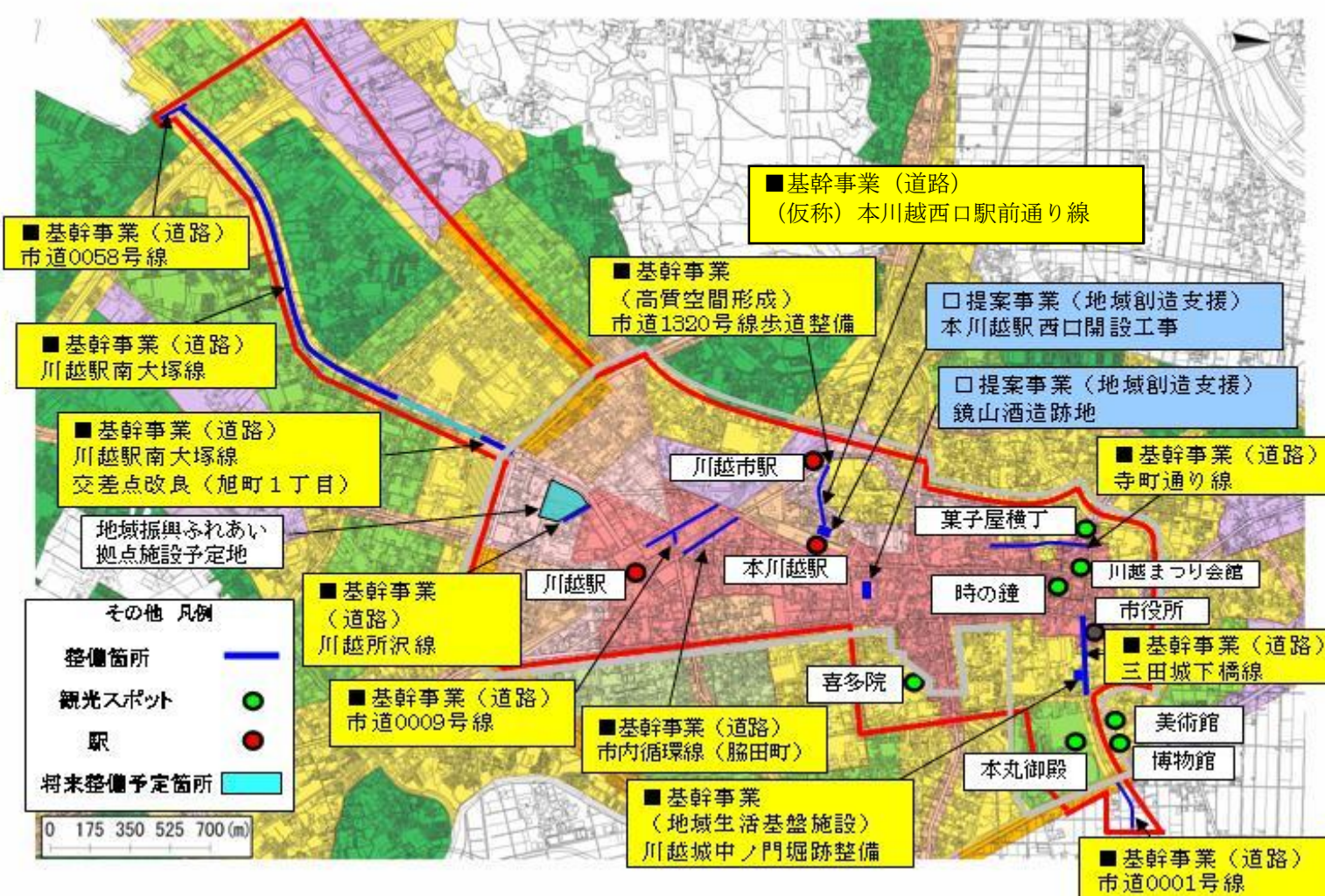
様式2-2 地区の概要

川越市中心市街地地区(埼玉県川越市) まちづくり交付金の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		従前値		目標値		評価値	
	指標	単位	従前値	評価	目標値	評価	従前値	目標値
大目標 自然と歴史を活かし、市民が安全・快適に暮らせるまちの形成と魅力的な都市空間の創出を目指して、中心市街地の活性化を推進する。 目標1 既存の歴史的建造物等の保全・活用を図り、市民や観光客、買物客等が憩い、集う「核」となる施設を整備することにより、市街地の賑わいを増進する。 目標2 川越駅、川越市駅、本川越駅間の連携を強化するとともに、各駅へのアクセス性の向上を図ることにより、鉄道利用者の利便性の向上を目指す。 目標3 三駅周辺の中心商業地区及び歴史的町並み地区の街路整備を進めることにより、道路交通の円滑化を図るとともに、地区間の連携強化を推進する。また、安全・快適な歩行者ネットワークを形成することによって、良質な都市空間を創出する。	休日の歩行者の通行量	単位:人/12時間	10,850	H16	13,000	H21	15,174	H21
	商業・観光施設利用者数	単位:人/年	418,000	H15	627,000	H21	674,323	H21
	主要駅間の乗り継ぎ所要時間	単位:分	11	H17	5	H21	11	H21
		単位:		H		H		H
		単位:		H		H		H



鏡山酒造跡地



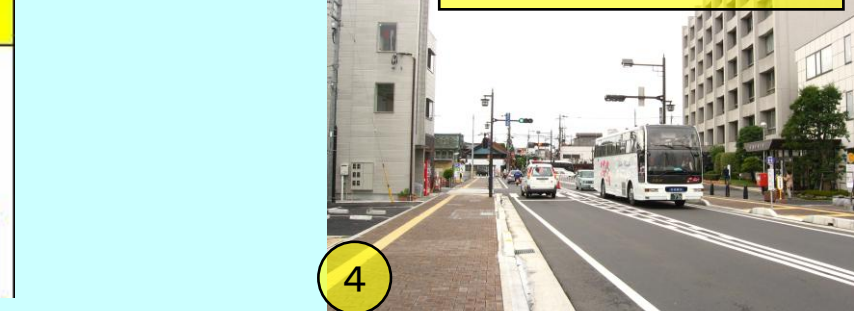
寺町通り線



川越城中ノ門堀跡整備事業



三田城下橋線



4

まちの課題の変化

- 観光スポット間を結ぶ都市計画道路整備(三田城下橋線)により、車両一方通行規制が解除され、周辺道路の渋滞が緩和された。また、歩行者の安全性が向上し、安全・快適な歩行空間の形成が図れた。
- 寺町通り線の整備完了により、石張り舗装及び電線類の地中化がされ、町並みに相応しい品位ある快適な歩行空間が生み出された。
- 中心市街地地区の南部と北部の中間(結節地)にある鏡山酒造跡地の事業完了により、連携機能が改善するとともに、新たな賑わいの創出ができた。
- 都市景観重要建築物の外観整備を進めたことにより、まちの魅力が向上した。

今後のまちづくりの方策(改善策を含む)

- 都市計画道路の整備による道路ネットワークのさらなる充実を図る
- 電線類地中化による安全快適な歩行空間の形成を図る
- 歴史的町並みに相応しい歩行空間を形成し、さらなるまちの賑わいを創出する
- 鏡山酒造跡地内施設の提供サービスを充実させ、さらなる賑わいを生み出す
- 休憩施設やトイレの増設を検討する
- 一番街から本丸御殿・博物館・美術館へ利用者が流れるようなルートを設定する
- エリア内に点在する都市景観重要建築物の魅力を活かした都市景観の形成により、回遊性を高める
- バス交通の利便性の向上を図ることにより、鉄道とバス利用による来街者を増加させ、もって自動車交通の減少を促進する
- 一番街における歩行者の安全と地域の活性化を図り、まちづくりと連携した地域に合った交通施策(パークアンドバスライドや共同集配システム等)をまとめる
- 鏡山酒造跡地周辺の路面整備を推進し、整備済みの南北道路との町並みの連続性を創出させ、安全・快適かつ魅力的な歩行空間の形成を図る
- 市民が自由に歩ける散策ルートの開発を検討する
- エリア内の面的広がり、回遊性の向上、他の歴史・文化的ストック(神社仏閣等含む)との連携等を考慮し、未活用ストックの活用を検討する
- 本川越駅と川越市駅の連携を強化することにより、鉄道利用者等の利便性、安全性の向上を図るとともに中心市街地の活性化を推進する